

地域計画

策定年月日	令和7年3月28日
更新年月日	()
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	洲本市 (28205)
地域名 (地域内農業集落名)	米山 (米山)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	17.6 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	17.3 ha
② 田の面積	17.1 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	0.56 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	0.86 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	0.93 ha
(参考)区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における〇才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

当地域の農業経営は露地野菜、玉ねぎ、稲作農家が多く、過去に基盤整備を行った結果、耕作放棄地はない。しかし、高齢化が進み、また、後継者も地元から離れ休日等を利用しての耕作及び農業を手伝う形が多くみられる。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

今後、耕作者人口は大きく減少すると考えられるため露地野菜(玉ねぎ、白菜、レタス、キャベツ等)や水稻の機械化を進めなければならない。機械類が高額のため、個人では効率的な農業は難しいと考える。機械の共同利用、共同作業を進めていきたい。また、山が近く鳥獣被害が発生しているため、地域一丸となって鳥獣害対策に取り組む必要がある。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針

地域内の担い手にも規模を拡大しようと考えている農家もいることから、離農や規模縮小を考えている農家に対しては地域内での貸付を行うよう勧めていく。

(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標

現状の集積率	3.8	%	将来の目標とする集積率	9.1	%
--------	-----	---	-------------	-----	---

(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標

農地を貸付ける場合は、極力、貸付農地の隣を耕作する者に預け、少しずつ集団化を進める。

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組
地域計画の見直しを毎年行い、農地を手放す農家がいた場合は隣接する耕作者に貸付の話し合いを行う。
(2)農地中間管理機構の活用方法
地域計画策定後は新規での農地の貸し借りを行う場合は農地中間管理機構を活用する。
(3)基盤整備事業への取組
地区内で農地についてはほぼ基盤整備が完了している。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組
当地域は専業農家と兼業農家のどちらもおり、今後の地域農業については地域内で見守っていくこととなる。後継者がいる農家には円滑に経営継承できるようにする。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
家庭内経営が多く現状経営を維持するためには地域との話し合いは重要だが、話し合いの中で委託事業も受け入れたい。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☒ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組内容】

①鳥獣対策として柵を設置している箇所もあるが、個人出費がほとんどのため、集落全体として取り組みを進めていきたい。
 ②⑨畜産農家と連携し耕畜連携に取り組むとともに、良質な堆肥を活用して減化学肥料化にも取り組む。
 ⑦水路の管理は田主が行っており、ため池管理についても田主が行っているが管理が難しくなっており、多面的機能支払制度や中山間直接支払制度を活用して集落ぐるみで保全・管理に取り組む。

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 16 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
認農		米、野菜	0.68 ha	ha	米、野菜	0.68 ha	ha	青色	
認農		野菜	0.00 ha	ha	野菜	0.93 ha	ha	黄色	
利用者	その他耕作者(26名)	米、野菜、飼料作物	16.95 ha	ha	米、野菜、飼料作物	15.16 ha	ha	グレー	
	耕作者未定		ha	ha		0.86 ha	ha	茶色	
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
計	4経営体		17.6 ha	0 ha		17.6 ha	0 ha		

注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業者(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。

2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。

3:農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。

4:作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。

5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)		うち計画同意者数(人・%)	
-------------	--	---------------	--

注1:「農用地所有者等」欄には、区域内の農用地等の所有者、賃借人等の使用収益権者の数を記載してください。

注2:「うち計画同意者数」欄には、同意者数を記載してください。

注3:提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

(留意事項)

農業を担う者を位置付ける際、これらの者の氏名が含まれた地域計画について、法令に基づく手続として、本人の同意なく、関係者の意見聴取や、地域計画の案の縦覧、地域計画の公告を行うことができますが、個人情報保有するに当たっては、利用目的をできる限り特定し、本人から直接書面に記録された個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示してください。

また、市町村の公報への掲載等とは別に、インターネットの利用により関係者以外の不特定多数に対して情報を提供する場合は、氏名を削除するなど配慮してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。